

5年生「スーパーグローバル」IDEC 連携プログラム

第5回実施報告

日時：2017年12月16日（土）13:00-16:00

場所：広島大学大学院国際協力研究科（IDEC）内 大会議室

参加者：生徒23名、留学生18名、学生1名、大学教員2名、本校教員4名

実施内容

第5回 IDEC 連携プログラムでは、IDEC へお邪魔させていただき、第3・4回で留学生の方々からいただいたご意見を参考に加筆・修正をした内容について発表し、議論しました。最初に、1グループにつき10分間の持ち時間で、計7グループが発表を行いました。生徒たちは事前にしっかりと準備をしており、留学生の方々から考察や発表構成について褒めていただいたグループも多くありました。次に、各グループに分かれ、研究の関心が近い留学生の方々と一緒に議論を行いました。



どのグループも積極的に議論する一方で、例えばジェンダーの問題について、宗教の違いによって日本における改善策がイスラム圏では通用しないなど、文化や宗教の違いによって、課題へのアプローチが異なることに頭を悩ませていました。最後に、IDECの清水先生から、国際社会において他者との合意形成を図るためには、文化や宗教を越えて誰にでも伝わる内容や、筋道立った論理的な説明が不可欠であるとお話いただきました。

今年度 IDEC 連携プログラムは第5回を持ちまして終了となります。このプログラムでの経験を通し、生徒たちは国際社会で生き抜くことの難しさを感じ、それと同時に生き抜く力を養う事ができてのではないかと思います。IDECの先生方、留学生の皆様、ありがとうございました。

【参加者の声】

○今回のプレゼンは前回までの発表の反省とディスカッションの時にもらったアドバイスを参考に改善した。発表し終わった後、前回アドバイスをくれた留学生たちが私たちの発表の改善点にちゃんと気づいてくれて、前向きなコメントをくれた時には、私たちの伝えたいことがきちんと伝わっているのだと感じることができ、非常に嬉しかった。他のグループの発表もレベルが高く、とても刺激的だった。



どのようなまとめ方をすれば、より論理的な主張になるか、どのような言い方をすれば理解されやすくなるか、など、自分たちの発表と比べることで反省点や改善の手がかりを得ることができたと思う。また、最後に先生からいただいた講評の中で一番印象的かつ私自身まだ意識が足りていなかったと思うのは「異文化出身の人たちが話し合う」といことだ。私たちが当たり前だと思い、説明はいらないだろうと思っていることや、考えの基本になっていてわざわざ示さないようなところこそ、説明が必要であるということが、先生と留学生のやりとりを通してはっきりとわかった。最後になるが、このプログラムは私にとって新しい経験ばかりで素晴らしい

学びの場だった。ここで得た多くのものを、これからのプレゼンやコミュニケーションに生かしていきたい。

○プレゼンテーションでは、どのグループも今までのプレゼンテーションとは違うなと感じた。前回までのプレゼンテーションと比べて、一つのテーマを選んでそれに焦点を合わせて深めていて分かりやすかったし、対策について前回より具体的に説明されていた。自分たちで対策を考えることは大変だが、前回までの留学生さんたちとの交流で出た意見・考えも組み込んでいて、説得力のある説明だったと思う。ディスカッションでは、留学生さんたちの意見を聞いて、中国ではこう、インドネシアではこう、など世界の文化の多様性を感じ、こうしたいろいろな世界の文化をふまえたうえで対策を考えなくてはならないと思った。そして、プレゼンテーションで問題として取り上げていることも一部の国では実際問題ではないのかもしれないし、どの国でも同じ方法がうまくいくわけではないのでこうした点も考慮すべきだと考えた。最後にあった清水先生の話では、プレゼンテーションとは、人に伝えるための手段の一つであるから人に伝わらなければ意味がないので誰でもわかる説明が重要なのだと感じた。また、意見を述べるときに、批判的思考力が必要だということも学んだ。自分が今までに学んだ知識をフル活用して、自分の意見がきちんとした証拠に基づいたものであるか、論理的一貫性を持っているか、答えが偏っていないかと思いき改善すると、よい意見になると知った。この5回の IDEC で人に意見を述べる際には、自分の意見をはっきりと伝え、また自分の意見に対して他人の意見に対して批判的思考力を持って考えるべきだと学んだ。そして、自分の意見をより深めるためには多角的な視点が必要であり、それを養うためには多くの分野に対する知識とその知識を活用する力が必要だと知った。これからこうした力をより深めていくためにいろいろな情報をキャッチして知識を深めたり、いつもとは別の視点で考えたりしてみたい。



○今回は最後ということでもたくさんもらったアドバイスを活かせるよう努めた。班員たちとも今まで以上に意見を交わし、正直に意見を言い合うこともできた。スライドを作る際も、どうすればみんなが理解しやすいか、矛盾しているところはないかなどをじっくり吟味したことで自分たちなりにベストな資料が作れたと思う。広島大学での発表後は留学生や先生方がほめてくださり、とてもうれしかった。またディスカッションではあらためて更なるプレゼンの改善について様々な意見をもらった。もう IDEC プログラムは終わってしまったが、これらの意見を今後参考にできる機会はいろいろあると思う。生かしていきたい。IDEC プログラムでは本当にたくさんを学んだ。上手くいかないことも幾度かあったがあきらめずに励んだ。最初のころは英語でしかも留学生と話すということに慣れず難しさを感じたが、5回を通して、英語そのものは意思疎通としての一つの手段であり、英語を学ぶ本当の目的は自分の考えを正しく伝え、相手を理解できるようになることであると感じた。世界中には私たちの知らない問題がたくさんあることも学んだ。このような問題を解決することは生徒の立場では難しいがそれでも自身の見解をもつことは大切だと思った。

